

新西宮ヨットハーバ～西宮貝類館～夙川散策

年月日 : 令和3年10月1日(金)
集合時間 : 9時45分
集合場所 : 阪神西宮戎口(西)2階
解散 : 15時頃
参加人数 : 11人

コース

阪神西宮→・・・(バス)・・・新西宮ヨットハーバー(昼食)→西宮市貝類館→跳ね橋→西宮砲台→御前浜→夙川散策→香櫨園→夙川

西宮浜について

昭和30年代にこの地域を埋め立て、日本石油を誘致する計画が浮上したが、市民の反対などあって誘致計画は計画発表から2年で白紙撤回となっている。高度成長期を挟んで以降、工業用地・宅地を確保するために西宮浜の埋立が1981年(昭和46年)から行われ、1989年(平成元年)に完工した。

4丁目の、現在西宮マリナパークシティとなっている一帯は、もともとヨットハーバーを核としたリゾートシティを計画していたが、バブル崩壊や阪神・淡路大震災による住宅不足もあって、住宅開発に切り替えられ、1998年(平成10年)の街開きと前後して小中学校も島内に開校した。西宮市立の公立小中一貫校

西宮市で初めての義務教育学校である。前身校である西宮市立西宮浜小学校・西宮市立西宮浜中学校が開校して以来、児童生徒や地域の人々に愛された「西宮浜」という地名に、当校の校種である「義務教育学校」を合わせ、さらに先進的な教育や研究を推進し、魅力ある学校づくりを進めるために、西宮市立総合教育センターの附属校としたため、校名は「西宮市立総合教育センター附属西宮浜義務教育学校」となった。



新西宮ヨットハーバー



新西宮ヨットハーバーより海を眺め

西宮浜にある西日本最大級のヨットハーバー「新西宮ヨットハーバー」。センターハウスには老舗名門ヨットクラブである関西ヨットクラブの事務所がある。冒険家の堀江謙一氏はこの関西ヨットクラブの名誉会員で、大西洋単独横断に成功した時に乗っていた「マーメイド号」が展示されている。

1967年、兵庫県は、芦屋沖に新ヨットハーバーを確保する西宮港港湾整備計画を決定した。

1971年、西宮港港湾整備工事が着工され、桁下16mの西宮大橋が架けられる見通しとなった。

しかし、当時、西宮マリーナ(西宮市西波止町1-2)を母港とする関西ヨットクラブ会員の大型ヨットが西宮大橋をくぐれなくなるため、兵庫県と西宮市に対し、西宮の埋立地(現在の西宮浜)の沖に新ヨットハーバーを確保するよう誓願した。

兵庫県のヨットハーバーの計画予定地は、依然として芦屋沖のままとされ、西宮大橋が竣工した。この頃、ようやく兵庫県は、誓願を受け入れ、西宮の埋立地の沖に新ヨットハーバーを確保する計画に変更した。

新ヨットハーバーの計画は、リゾートホテル、テニスコート、人工海水浴場、コンドミニアム、野外音楽堂、オペラハウス、アスレチッククラブなどを併設した一大リゾートシティ構想へと発展した。

しかし、バブル景気崩壊のうえ、阪神・淡路大震災被災者向けの住宅確保が急務となり、一大リゾートシティ構想は無くなり、新ヨットハーバーを西宮の埋立地の沖でなく、西宮の埋立地内の南西部(現在地)に確保することになった。

新ヨットハーバーのセンターハウス建設に際し、関西ヨットクラブのクラブハウスも併せて建設した。

1996年、新ヨットハーバー開港に合わせ、関西ヨットクラブ会員艇が一斉に新ヨットハーバーへ引っ越し、しばらくの間、新ヨットハーバーには関西ヨットクラブ会員艇しか係留されていなかった。



集合写真 マーメイド号の前



新西宮ヨットハーバー

西宮市貝類館

世界各地の貝類、約2,000種、5,000点が展示されている貝類専門のユニークな博物館。館内には重さ200kgを超えるオオシャコガイからゴマ粒ほどの小さな貝、生きたオウムガイなどが展示され、実際に貝を手にとってふれることも出来る。各展示コーナーには日本の貝をはじめ、世界の貝、貝の起源・進化などが分かりやすく解説されている。学習室には貝に関するビデオや書物なども多数あり、実物や映像を通して誰もが楽しめる施設となっている。

展示標本の他に、菊池典男から寄贈された黒田徳米の貝類標本、約3800種4万点も収蔵している。

貝類館の建物は安藤忠雄の設計であり、風をいっぱいにする帆をイメージしたデザインとコンクリート打ち放しの外観が特徴的。隣接している西宮浜公民館との間にある中庭には、海洋冒険家である堀江謙一から寄贈された実物の「マーメイド4世号」が展示されている。



貝類館の展示



オオシャコ貝



マーメイド4世号

跳ね橋

西宮浜と対岸の香櫨園浜（御前浜）を結ぶ、長さ約 60m の歩行者・自転車専用の橋。桁下の高さが 3.9m しかないのに、大型の船も通過できるようにと橋桁が跳ね上がる構造になっている。橋の正式名称は、御前浜橋。現在、この橋が開くのは土・日と祝日だけ。

1日4回（10時、12時、15時、17時）開け閉めが行われる。

跳ね上がり始めて閉じるまでには約 20 分。

この時間に行き合えば、橋のたもとで待つことになる。

住民にとっては厄介な橋に思われているようだが、初めて行く人にとっては貴重な経験ができる橋。また、シャッターチャンスにもなる光景だ。

1992 年、西宮浜の埋め立て工事が終わった時にはまだこの橋はなく、東側にある車も通る西宮大橋（長さ 590m）だけだったが、阪神淡路大震災後その西宮大橋が通行止めになったことで、今の御前浜橋の場所に仮設の橋としてできた。

しかし、高さ 16m までの船が下をくぐれるようになっている西宮大橋は、橋がかなりの急勾配になっていることもあり、西宮浜の住民の橋として、その仮設橋の場所に跳ね橋が造られた。



跳ね橋

西宮砲台

幕末の頃、国防に不安を感じていた江戸幕府では、将軍徳川家茂の時代になり勝海舟の建議を取り入れ、文久 3 年（1863 年）、大坂湾の海防のために和田岬砲台、舞子砲台、今津砲台などとともに西宮砲台の建設が開始された。

高さ約 12m・内径約 17m・壁厚 1.21m（1 階底部は 1.53m）の石造円堡。外壁は漆喰仕上げ、内部は 3 層となっている。1 階は床叩土で、中央に防火用（もしくは砲身冷却用）の井戸が掘られ、

床板敷の弾薬庫が設けられていた。2階は木造で側面に砲眼（下画像）が11個、北側に外部より指示を受けるための窓が1個開いており、大砲2門を設置し筒口を四方に向ける装備であった。なお、砲台は柵に囲まれており、内部は公開されていない。

明治17年の火災により外郭部のみが残っていたのを、明治41年、阪神電鉄が1万1千円余りで払い下げを受けます。



西宮砲台



マリンスポーツ

香櫨園浜(お前浜)

明治40年7月、打出の東隣り、香櫨園浜に美しい白砂がひろがる海水浴場の施設を移すことになりました。

昭和30年代後半にはいると、海水汚染が目立つようになります。昭和36年ごろは西宮砲台の西隣に「マリンプール」ができています。海で泳ぐのはもっぱら大阪や神戸などの遠方から来人々だったといえます。

昭和40年、香櫨園海水浴場は甲子園海水浴場とともに閉鎖されることになりました。その後昭和50年代には、海の水をきれいにする取り組みが功を奏し、ウィンドサーフィンを楽しむ人が集い、野鳥が飛来する楽園へと姿を変えました。

堀江謙一氏 1962年世界初の小型ヨットで単独無寄港太平洋横断に成功されてから46年間冒険航海に挑戦続けられた夢の世界を少し感じた。

久しぶりの行事で足腰が十分に機能しなかったのでは？
ご参加いただいた皆様有難う御座いました。お疲れ様でした。

リーダ：服部（担当：ヨットハーバ周辺案内）

サブ：花島（担当：貝類館以降案内）

記録：花島 写真：小林・平山（ご協力有難う御座いました）